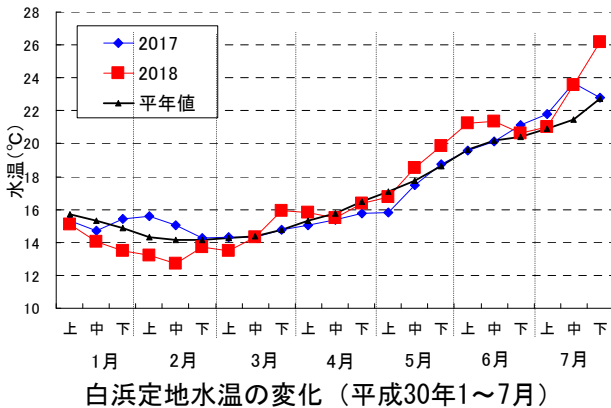




平成30年8月 静岡県水産技術研究所伊豆分場ニュース

黒潮大蛇行の今後と沿岸域の高水温の状況



解説：黒潮大蛇行の定義：「潮岬で黒潮が安定して離岸していること」「東海沖（東経136~140度）の流軸の最南下点が北緯32度より南に位置していること」が判断基準。静岡県近海において大蛇行時には、黒潮は遠州灘沖で大きく離岸した後、伊豆半島に向かって北上する流路をとる。

昨年9月29日の気象庁による黒潮大蛇行発生の発表以降、現在も大蛇行は継続しています。7月30日に中央水産研究所から発表された「平成30年度第1回長期漁海況予報」では、大蛇行は未だ解消の兆候が見られず、少なくとも12月頃までは継続すると予測しています。また、沿岸水温（白浜）は7月中旬より顕著な高温傾向を示し、7月下旬は平年比（30年平均比）+3.4℃と極めて高い水温となりました。この高水温は、黒潮大蛇行に伴う暖水波及により相模湾に暖水域が拡大した影響と考えられます。

今後、高水温が継続すれば、海藻群落の消失（磯焼け）、それに伴うアワビ等沿岸資源への悪影響が懸念されます。また、黒潮流路は回遊魚の回遊ルートにも影響を及ぼすため、伊豆東岸定置網の漁獲主対象である、さば類やブリ等の漁況にも影響を与える可能性があります。

マダイ中間育成終了、放流へ

6月中旬に始まったマダイの中間育成は、稚魚が放流に適した大きさまで成長したため終了しました。西伊豆町田子では7月19日、熱海市網代では8月1日に計数作業が行われ、放流するマダイ稚魚の尾数が調べられました。中間育成中の生残率は、田子と網代の両地区ともに、例年を大きく上回り約8割と高い結果となりました。これらのマダイは、伊豆の各地先で、放流適地である港内へと放流されます。



↑西伊豆町田子での計数作業

解説：マダイの放流効果：県内では漁業と遊漁を合わせて400~700トンのマダイが漁獲される。そのうち放流魚は約30~40%を占める。また、放流魚の回収率（尾数計算）は10~20%と推定される。

稲取でダイバーによる天草採取

伊豆漁協稲取支所では、ダイバーによる天草の採取を検討しています。昨年度から地区内のダイビングインストラクターにより試験操業を行ってきました。今年度も7月11日に試験操業を行ない、4人で約90kgを採集しました。まだ採取量は多いとはいえませんが、



天草の着生が多い場所を選択することができれば、採取量が増加することが期待されます。

←乾燥作業

解説：天草は、採取してからに真水で塩抜きした後、天日で乾燥、選別作業を経て製品となる。概ね25kg単位で取引される。

8月の予定 ●キンメダイ種苗生産研究のために親魚捕獲、船上授精を行います。 ●県調査船駿河丸によるキンメダイを食害するサメ捕獲調査が8~9日に行われます。 ●夏~秋の定置網漁海況予測を発表します。 ●キンメダイ資源管理に関する漁業者検討会が開かれます。

連絡先：静岡県水産技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：<http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu>